

エメ・アンベールのジャポン・イラストル

1863年、江戸時代（1600～1867）が終わりに近づいたとき、エメ・アンベールはスイスの全権大使として来日し、翌年に彼の国と日本との貿易条約に調印しました。

高德院を訪れた彼は、大仏は宗教的にも芸術的にも日本人によって作られた傑作であると述べました。彼は、大仏が見渡す限り広い場所にあるのではなく、人里離れた場所にあると説明しています。大仏への道は木々や草花を通り、角を曲がった後、座って瞑想をしている巨大な銅像が見えるようになる。その堂々とした姿勢や均等美は計り知れない魅力があり、周囲もこの平静な姿に完全につりあっている。暗くて静かな森が聖所を囲む。これが1860年代に大仏を見たときのアンベールの印象でした。